

交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2015年3月12日

No.19

「我々はベースアップにこだわる！」

～2015春闘 第4回交渉報告～

中央本部は本日10時より「第4回賃上げ交渉」を行い、会社は今春闘における現時点での考え方を以下の通り明らかにしました。

- ①収入動向については3月に入りコンテナが対計画94.4%、車扱96.3%であり、計画に対して2億1400万円の未達であり苦戦が続いている。今年度の落ち着いた見込みについて、経常利益は2ケタを確保できる見込みだが、油断できない状況である。
- ②平成27年度についてはダイヤ改正効果や営業施策の着実な実施により収入拡大を進めていくが、一方で線路使用料や動力費の更なる高騰が見込まれている。
- ③現在、多少の景気変動があっても安定的に利益を計上できる会社にするために様々な施策を行っているが、その中で経費、とりわけ固定費となるベースアップについて慎重に判断せざるをえない。
- ④以上の事柄を会社として検討した結果、定期昇給は完全実施するが、ベアは実施できる状況にはない。諸要求やその他の事項は引き続き協議していく。

「ベースアップ実施でこの間の努力に対する投資を！ 支払能力はあり、会社の考えは全く受け入れられない！」

中央本部は会社の回答に対し、以下の通り強く指摘しました。

組合：組合員は職場で大変な苦勞をしながら、輸送障害にも対応してきた。平成26年度について2ケタの黒字決算の見込みであり、支払い能力は十分ある。にもかかわらずベアを実施しないという結論は理解できない。考えを改めるべきだ。

会社：単年度ベースで考えればベアは可能だが、鉄道事業部門の黒字化にむけて中期計画全体を考えた時に、固定費であるベースアップを増やすことは慎重に判断しなければいけない。

組合：一方で債務については計画よりも順調に減らしているし、設備投資も行っている。他方でこの間、人への投資は全くされていない。今こそ「社員」に対する投資を行なうべきである。

会社：債務は有利子借入金の無利子への借り換えなど減らしているが、それでも依然として債務は残っており、少しでも返していくことが会社として当たり前である。社員への投資は重要であることは会社としても認識しているが、鉄道事業の黒字化を考えると慎重に判断せざるをえない。

(次項へ)

(前項より)

組合「経営陣の決意と覚悟はいつ明らかにするのか！」

組合：会社の将来展望を具体的に示すことは会社の責任であるが、経営陣の決意と覚悟はいつ明らかにするのか。具体的に言えばどのように汗を流すのか、血を流すのかが全く見えてこない。組合員に見える形で示すべきだ。

会社：経営陣がトップセールスをやっても結果を出さなければ意味が無いし、結果を含めてそういった部分は明らかにしていく必要は感じている。これまで貨物労組からいただいた指摘について経営陣も認識している。その具体策についていつ明らかにするかは明確にできないが株主総会に向けて議論していく。

組合「中途採用について、早急に具体策を示せ！」

組合：15春闘に限らず経営陣への信頼が揺らいでいることを認識するべきだ。社員を「コスト削減の対象」として見ていないか。15年間のベアゼロなどで投資を行わなかった結果、社員のモチベーションは下がり続けている。将来不安を感じた若手・中堅社員の退職が続いており、実際ダイヤ改正時点で欠員も発生している。中途採用についてどのように議論されているのか明らかにすること。

会社：今年度の定年以外の退職は50名程度であり、離職率の傾向はこれまでと比べ変化があるとは思ってない。中途採用に関しては3月中に人事委員会を開催し、総務として中途採用を行なうことを提起したうえで会社として年度初に実施できるよう取り組む。

組合「代償措置について区分けして議論すること！」

組合：我々は諸手当の見直しの団体交渉の経緯により判断してきたが、その代償措置はベアや諸要求とは区分けして議論していくとの認識だが、それでよいか。

会社：これまでの諸手当見直しの経過については会社としても尊重したい。

組合「経営陣の身を切っても社員に投資せよ！」

組合：経営陣は本社を出て職場の現実を見に行くべきだ。社員は厳しい要員需給の中、少ない給料で我慢している。ベアを実施できないとする会社の理由は、我々にとって受け入れられるものではない。鉄道事業の黒字化に向かっていくのなら、社員のこの間の苦勞に報いること、モチベーション向上を具体的にはかるべきである。経営陣が身を切っても社員に対して投資するなど、具体的な決断を求めろ！

会社：指摘は受け止めて社内で議論する。

組合員のみなさん！中央本部は今15春闘において「何としてもベースアップ実施と諸要求の実現」を求めていくとともに本日の交渉においても「経営陣の覚悟と決意を組合員に見える形で示すこと」「諸手当見直しにおける代償措置の具体化」について、組合員の想いに応えるためにこれまで交渉を積み上げてきました。

しかし、会社は本日の交渉において「人」への投資を行なう考えがないことを明らかにしました。このような会社の考え方は、職場でまじめに働く組合員の努力や苦勞を無視するものであり到底認められるものではありません。

昨日の全国統一行動において各職場から創意工夫した取り組みが行われています。15春闘勝利に向けて、本部・地本・職場が一体となってたたかいをつくりだす決意を新たにしました。中央本部は、職場で働く組合員の想いに応えるため、回答指定日に向けてその最先頭で奮闘していく事を決意し、第4回交渉報告とします。

次回交渉（回答指定日）は3月20日（金）です。

以 上